

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第1回 福津市立図書館協議会	
開催日時	令和4年7月27日(金)	午後2時00分から 午後4時00分まで
開催場所	福津市立図書館 研修室2	
委員名	(1) 出席委員 安德尊博、漆谷慎一、立山睦郎、中尾恭子、木庭竜之助、秦暁子、山元悦子、 (2) 欠席委員 河井律子、清水光朗、宗岡尚子	
所管課職員職氏名	谷口(郷育推進課長)、溝辺(市立図書館長)、森(カメラiasステージ図書館長)、大村(市立図書館主幹兼図書サービス係長)、堤田(市立図書館サービス係長)、田中(市立図書館管理係長)	
会 議	議題(内容)	① 令和4年度図書館運営方針及び事業計画について ② 令和3年度図書館事業報告及び利用状況について ③ 福津市立図書館資料収集方針について ④ 図書館評価について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	0名
	資料の名称	・会議次第    ・令和3年度福津市図書館年報 ・令和4年度図書館運営方針・事業計画 ・福津市図書館資料収集方針(改定案) ・図書館の自由に関する宣言    ・福津市図書館評価(素案)
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録 記録内容の確認方法    会議出席委員による確認  内容に相違ありません。 委員    秦    暁子    ㊟	
その他の必要事項		

協 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会のあいさつ
2. 辞令交付
3. 会長あいさつ
4. 協議事項

協議事項① 令和4年度図書館の運営方針及び事業計画について

(事務局) 資料「令和4年度図書館運営方針・事業計画」に沿って概要説明。

(山元会長) 事業の広報はどのような方法で行っているか。また、事業の参加人数はどのくらいか。

(事務局) 市の広報誌である「広報ふくつ」、図書館のホームページ、館内ポスター掲示及びチラシ配布を行っている。参加人数は昨年と比べて大きな変化はない。

協議事項② 令和3年度図書館の事業報告及び利用状況について

(事務局) 資料「令和3年度福津市図書館年報」に沿って概要説明。

(秦委員) 来館者数はどのような方法で調べているのか。

(事務局) セキュリティゲートでカウントしている。

市立図書館はゲートを開架室入口に設置しているので館内閲覧だけの利用者も含まれているが、開架室以外の施設利用者は含まれていない。カメラはゲートを玄関に設置しているので全利用者を含んでいる。

(山元委員) 全国的に見ても市民一人当たりの貸出数が良好だという報告だったが、その理由について図書館ではどのように分析しているか。

(事務局) 読書ボランティアの熱心な活動や読書に関心の高い市民が多いことが理由ではないか。また、比較的資料購入費が多いことや図書館周辺に住宅街や大きなマンションが点在していることが理由だと考えている。

(山元委員) 地域の特性として子育て世代を中心に市外からの流入が続いているが、児童や生徒に向けた図書館の取り組みについて保育園や学校関係の委員からも意見を聞かせてもらいたい。

- (安徳委員) 子育て世代の増加は保育園で非常に実感しているところだ。図書館では多くの行事をしているがそれが充分に対象者に知られていない場合もある。情報提供してもらえれば保育園を通して案内ができる。
- (木庭委員) 小学校の立場から申し上げる。小学校にとって図書館はそれ程近い存在ではない。利用者数が多いという報告だったが子どもたちの中から図書館を利用するという話はなかなか聞こえてこない。図書館と連携した学校教育の取り組みがなされているかというところは弱いと感じる。子ども司書等を継続実施しているが、児童生徒全体から見ればほんの少数を対象にした事業であり、学校全体へのひろがりを感じられない。学校教育における図書利用や図書館教育と一緒に取り組んでいけたらいいと考えている。例えば、ビブリオバトルを授業に取り入れる時に図書館の力を借りるといような、普段の授業の中に図書館とのつながりを作っていくことが望ましい。司書の体験も大事なことだが、どちらかという図書館や読書が好きな子ども向けの講座である。学校としては、多くの子どもたちに興味を持たせられるような取り組みを考えていきたい。
- (立山委員) 小学校で新1年生に図書館の利用方法などを教えると利用が広がるのではないか。
- (事務局) 現在準備段階ではあるが、来年度、新一年生向けの利用案内を作成する予定だ。
- (山元委員) 図書館からは、学校でどういう授業がありどのようなニーズがあるのか見えにくいのかもかもしれない。
- (木庭委員) 教育活動について図書館と一緒に検討するような場を作っていく必要がある。他の自治体では取り入れているところもある。
- (事務局) 今後、校長研修で議題としてあげて対応を考えていきたい。宗像市や宇美町、小郡市など学校連携を積極的に進めている自治体もある。福津市の場合、学校教育と社会教育が分離したような形になっているが同じ教育委員会なのでうまく連携をとって子どもの読書活動を推進しそれが大人までつながるような仕組みを作っていきたい。もう一つ、福津市にはコミュニティースクールという強みがあるのでその機能を活かせるような取り組みを検討したい。

- (木庭委員) 郷づくりと学校とのつながりは非常に強い。郷づくりと図書館の共働イベントがあれば子どもたちは参加しやすくなる。今は、図書館に来てください、というイベントが多いように思う。
- (秦委員) 子どもたちは自分の好きなものを紹介する時に生き生きする。ドキュメンタリーで見たことがあるが、帰りの会的な場で、1日1冊自分の大好きな本を紹介するということに取り組んでいるクラスが紹介されていた。学校側の負担もそれ程ではなく、図書館を利用するきっかけになるのではないか。
- (木庭委員) 学校全体で実践しているところは少ないが、クラス単位で取り組んでいるところはある。そういう取組は大事なことだ。
- (山元委員) 子どもたちが持っているタブレットを通して、図書館のイベントの案内を流すことができるのか。
- (木庭委員) 可能だ。
- (木庭委員) 電子図書館のコストについてお尋ねしたい。紙の本と比べてどうなのか。仮に電子書籍が高額であれば蔵書数を増やすのは難しいかもしれないが、利用増加には蔵書の種類や数を増やすことが不可欠だ。
- (事務局) 電子書籍のほうがだいぶ高額だ。
- (山元委員) 電子図書館の対象はどのあたりの年代か。
- (事務局) 今年2月の電子図書館オープン時に一般利用者約20,000人、7月に小中学校の児童生徒7,000人分と教職員のアカウントを登録している。
- (山元委員) タイトルが明確でない場合、例えば「お菓子 作り方」などの漠然とした検索で本を探すことはできるのか。
- (事務局) 今のシステムでは難しいが、次期システムではあいまい検索が可能になると考えている。
- (立川委員) 年報11ページの予算決算についてだが、通常、予算と実績とその差額、あるいは前年と今年の実績とその差額という表記だと思うが、(この年報の表記では)比較がしにくいので、比較できる形で出してもらいたい。
- (事務局) 次回は比較しやすい形で作成する。

(山元委員) 令和3年度市立図書館事業報告の「やべみつのリトークライブ」について、ライブ配信のようなことはできないだろうか。参加者38名ではもったいないと思うが。

(事務局) 今後検討したい。

(漆谷委員) 漢検、英検、数検、世界遺産検定などの合格を目指す講座を実施してもらいたい。また、試験会場にすることも検討してもらいたい。

### 協議事項3 福津市立図書館資料収集方針について

(事務局) 資料「福津市立図書館資料収集方針について」に沿って概要説明(複数の委員から)

「2 種類別収集方針」の「ウ ヤングアダルト図書」の③について、“中高生が主人公もしくは話の中心になっている”は限定的すぎると感じる。ヤングアダルト図書の③と④はもう少し検討が必要ではないか。

(山元委員) 児童書の①について、科学絵本など様々な絵本が出てきている中で、「評価の定まった」という表現は少しどうかなと感じる。

(中尾委員) 選書は、現場(窓口業務担当)の司書と中の職員(市職員・司書)が一緒にするのか。また、カメラシア図書館で行っている選書ツアーで一般の人に選書をさせる意味は何か。

(事務局) 選書は、窓口業務担当職員ではなく市職員(司書)が行っている。選書ツアーは、市民が選んだ本の中から司書が実際に購入する本を選定している。地域のニーズにあった資料を揃える、あるいは地域で作り上げていくという意味合いがある。

(事務局) 資料収集方針は今年度中に作り上げる予定だ。今後、最終提案に向けて意見をもらいたい。気付いたことがあれば随時意見をメールなどで図書館に寄せてもらい収集方針案に反映する。

### 協議事項4 福津市図書館評価について

(事務局) 資料「福津市図書館評価(素案)」に沿って概要説明

- (山元委員) 外部評価の外部とは、どういうところを念頭においているのか。
- (事務局) この協議会を外部評価に位置付けるという考え方、また教育委員会の法律に基づいた点検評価に委ねるという方法、あるいは、今後市が取り入れる行政評価の外部評価などを候補として考えている。
- (漆谷委員) 数字は非常に客観的でわかりやすいが、数字にこだわる必要があるのかと感ずる部分もある。図書館を利用する市民のニーズを汲み取って、不満や不十分なところを改善していくことのほうが私は大事だと思う。
- (事務局) 図書館をよく利用しているのは市民の約2・3割だ。約7割の市民が図書館を利用していない。今年度実施した満足度調査では90%以上の回答者が満足、と答えているが、本当にそれでいいのかという思いもある。図書館を利用していない市民にどう情報発信していくかが課題の一つだ。今後ウェブなども活用しながらアンケートを取っていききたい。

## 5. その他

### 次回の日程について

- (事務局) 第2回目は11月頃に先進地視察を考えていたが、新型コロナウイルス感染者が増加しているため視察は見送る。
- 資料収集方針、図書館評価、子ども読書活動推進計画等の策定が大きな課題の一つだ。これらの進捗状況によっては秋頃に1度開催する必要があるが出てくる。開催する場合は、日程調整を行いお知らせする。必要が無ければ次回は来年2月開催とする。